

ドキドキ IZUCHU図書館 わくわく

和泉中学校図書館 第68号 2019年12月発行

◆『聊斎志異(りょうさいしい)』◆ 蒲松齡・著

中国生まれの怪異の世界が味わえる

中国に伝わる不思議な物語集。妖しや幽鬼、精霊などとの距離感が日本とはまったく違うことにおどろかされる。妖怪、仙人、地獄の役人などが登場し、とても面白い。

さらさらっと描かれたような挿し絵もい味出しています。

- ・宿が満室のため遺体を安置している部屋に泊まることになった話(『宿屋の怪』)
- ・6センチの武士と犬が蚊やノミを退治する話(『小さな狸犬』)ほか



冬休み前特集 図書室にはフシギな本がいっぱい!



◆『絵本 光の旅 かげの旅』◆ アン・ジョナス作
最後のページまで読んだら、本を上下さかさまにしてみてください!
全ページ白と黒だけで描かれている絵本。夜明け前に家を出発し町や村への旅が始まる。そして最後のページで上下ひっくりかえしたら…アラ! 不思議! 全然ちがう風景があらわれる。
トリックアートの手法を使った不思議な絵本。



◆『家をせおって歩く』◆ 村上 懸・著

文字どおり、家をせおって歩いているんです。世の中には不思議な人がいるものですね~
発泡スチロールで小さい家を作って、その中に住んでる人がいます。その家をせおって…というか、その家の中に入ったままてくてくと歩くんです。そのスタイルで、4月に東京を出発して→福島→青森→長野→京都→神戸→九州と、8か月の旅をしたよ。そのあと、海外にまで行っちゃった!
その旅の様子を写真で紹介しているのがこの本です。



◆『変身』◆ フランツ・カフカ著

ある朝、ザムザが目覚めると、自分が巨大な毒虫になっていた。

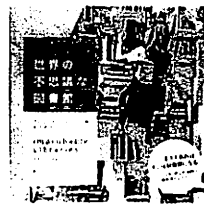
ザムザは仕事に行かねばと必死にもがくが、体を動かすこともままならない。やがて、家族がザムザの変わり果てた姿を目にすることに大騒ぎとなる。やがて家族から受ける扱いがそれまでと大きく変わっていく。一体自分は何だったのか…。

100年以上前に書かれたのに、いまだに読み継がれている超有名な古典作品。



◆『世界の不思議な図書館』◆ なんだこれ! ?と思うようなユニークな図書館の写真集

「本さえあれば、そこは図書館になる」と前書きにあるように、豪華な建物がなくても図書館になってしまう。古い電話ボックスが図書! ? 駅やカフェやホテルにある図書館。川をさかのぼる図書館船。本を運ぶためにゾウやラクダも大活躍…などなど、夢のある一冊。
和泉中でも真似できないかな?
アイデア募集しませ〜!

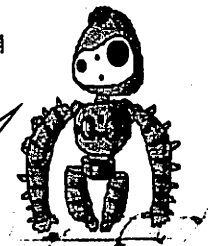


◆『図説 世界の七不思議』◆

古代世界の七不思議がよくわかる

古代の七不思議とは…

- ① ギザの大ピラミッド
- ② オリュンピアのゼウス像
- ③ バビロンの空中庭園
- ④ ロードス島のヘリオスの巨像
- ⑤ アレキサンドリアのファロスの灯台
- ⑥ エフェソスのアルテミス神殿
- ⑦ ハリカルナッソスのマウソロスの霊廟

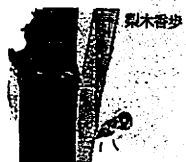


どこに、どうやって造られたのかな?
有名なのにその実態がよくわからない不思議を解説しているよ

◆『家守奇譚(いえもりきたん)』◆ 梨木香歩・著

これは夢か、まぼろしか…

家守綺譚



亡くなった友人の家の「家守(いえもり)」を頼まれた主人公の綿貫は、広い庭をながめて気楽なひとり住まいを楽しんでいた。そんなある日、庭の池から舟に乗った奇妙な客人が現れた。それは亡くなったはずの友人・高堂だった。それ以降、綿貫はその家でさまざまなものに出会うことになる。
まるで自分が不思議の国に行ったような気持になる物語。

12月9日(月)より冬休み特別貸し出しをします。 ◆一人5冊まで ◆返却は3学期 **トピックス!**

◆『サンタのおばさん』◆

東野圭吾・著

なぜサンタクロースは男性だと決めてかかるのかね

今年もイブが近づいて、恒例のサンタクロース会議が開かれます。

その年から新たに加わることになったサンタはなんと女性！女性サンタを認めるかどうかで会議は大騒ぎに…。全世界のサンタが集まる中で、気候や人種の違いを例にあげながら会議は白熱します。

短くて読みやすい絵本のような一冊。

イタリアサンタから「日本のサンタはゲーム機だけを配ってればいいんだから楽じゃないか」と言われてしまう場面はちょっと笑える～WWW



サンタのおばさん



◆『輝く夜』◆

百田尚樹・著

クリスマスイブがテーマの泣かせる5編の奇跡の物語

幸せな空気が流れるクリスマスイブ。恵子は7年間働いた会社からリストラされた。さらに倒産の危機に苦しんでいる弟に、なげなしの貯金まで渡してしまう。「高望みなんでない。平凡な幸せが欲しいだけなのに。」それでも困っている人を放っておけない恵子は一人の男性を助けようとするが…。



◆『ドローセルマイヤーの人形劇場』◆ 斎藤洋・著

人形つかいと人形には信じられない秘密があって…

若い高校教師エルnstは、ある日、人形つかいのドローセルマイヤーがあやつる人形劇を目にする。人形たちがまるで生きていくかのよう！たちまちエルnstは人形劇のとりこになり、その場で教師の職を捨ててドローセルマイヤーの弟子になることを決める。さあ、ドローセルマイヤーの素晴らしい技の秘密とは？話の面白さにどんどん引き込まれてしまうよ。



えらいこっちゃ 日本の15歳の読解力が急落

PISA調査 日本の読解力低迷 読書習慣の減少も影響か

79の国で行われた国際学習到達度調査(PISA)で、日本の15歳の読解力低下が浮き彫りになった。日本の読解力の順位は、4位(2012年)→8位(2015年)→15位(2019年)と急落した。

文部科学省が発表したその原因は…

- ① パソコンを使ったテスト形式に慣れていなかった
- ② 日本では選択式問題のテストが多く、記述式が苦手な生徒が多い
- ③ 読書習慣の減少



今回の調査で、読書習慣のついている生徒の方が平均点が高いこともわかった。「小説などをよく読んでいる生徒の平均点は531点」で、「読まない生徒は486点」と、45点高かった。(記事は12/3産経新聞より抜粋)

～やはり読書は大事なのね、みんなもっと本読もう！～



古い雑誌(日経エンタテインメント)を差し上げます!

欲しい人は図書室に来てください。

★期間: 12月9日(月)～13(金)

※希望が多い場合は抽選です。

